

◎議会報告

テーマ ①国道153号バイパス化事業について

②雨氷災害について

国道153号バイパス化事業について

Q1 市民

・小野神社前カーブの前の住人だが、カーブ先の空き家に今年に入っただけでも3回車が飛び込んでいる。小野神社から支所のある大出まで153号沿いは大型車の通行で危なくて歩けない。祭りの飾りも設置できないほどだ。ぜひ何とかしてほしい。

A 横沢議員

・両小野バイパスが北小野地区の悲願だ。松本建設事務所（松建）にはこれまで毎年、提言活動してきた。先日も丸山大輔県議に同行を願い153号改良をお願いした。26年の期成同盟会でも松建、伊那建に陳情した。その折に幹事市の伊那市白鳥市長が言っていたが、国会議員の理解と行動が（バイパス実現の）ポイントになると言っていた。

Q2 市民

・こういう地域の大きな課題を実現していくことが市議会の大きな仕事だ。バイパスの話は50年かかっている。北小野は、市では人口も一番少なくて、今まで一番遠慮してものを言ってきた。だが北小野は153号の基点だ。党派等色々あろうが、議会として一致してこの課題（両小野バイパス）に取り組んでほしい。

A 永田議員

・市としてこの事業が（一般的な県の管轄にとどまらず）国の直轄事業になるよう、議会としても国・県に対し働きかけていく。

Q3 市民

・私の家も153号に面している。朝の7時から8時の時間帯など横断は困難で走って渡っている。3年前には死亡事故もあった。日常の大型車通行の際の振動や音も大変だ。そのたびに地震のようだ。夜は（音と振動で）目が覚めてしまう。家にひび割れも出ているし屋根瓦のズレも心配。マンホールや舗装の継ぎ目など音や振動の出る場所は決まっているが（対策は実施されない）。制限時速は50kmは40kmにできないか。153号と生活道路の併用は無理だ。除雪も原因で道路は4～5年で傷んでしまうが今の道路は19年に舗装されて以来補修は行われていない。横沢議員の6月一般質問には感謝したい。

A 横沢議員

・（国県には）高機能舗装をお願いしているが引き続きお願いしていく。市の取り組みが大

事。これまで国道対策は高出拡幅と桜沢バイパスがある19号が要望の中心だったが今後は153号も力を入れるという市長の答弁があった。153号改良の市内全体構想が必要だ。

Q4 市民

・(両小野バイパスは)半世紀やってきてそのたびに頓挫してきた。(153号期成同盟会)要望書も(幹事の)伊那市に出向いて要望して、ようやく両小野バイパスが要望事項に掲載された経緯がある。要望書の中の順番は一番最後なので、これを上げる取り組みが大事だ。両小野地区は153号1本に頼っている。両小野バイパスには辰野町も熱心に取り組んでくれている。横沢議員以外の議員も人ごとと思わず市議会全体でこれに取り組んで欲しい。

A 永田議員

・議会挙げて取り組んでいきたい。

Q5 市民

・2月19日の雨氷被害の折に北小野地区は孤立した。何日153号が停まったか、横沢議員と金子議員のほか知っている議員はいるか。他の議員も、A班、B班といわず一緒になって市長をかつぎ出して国会議員を動かすような動きを、熱意をもってぜひやっていただきたい。

A 丸山議員

・議会報告会を始めて住民の皆様の切実な声を直接聞き、各地域の課題は全議員で共有するようになった。

A 金子議員

・雨氷被害のときは伊那にいて、帰りは善知鳥峠は雨氷で停まったので使えず、岡谷まわりで帰ってきた。153号対策については、過去いろいろあったと承知しているが、対策の場になると用地交渉等の場面では総論賛成、各論反対で地権者の理解が得られず実現できなかった場面もあった。議員だけのがんばりでは無理。地元挙げてというまとまりが必要なのでご理解を。

Q6 市民

・各地区の発展なくして塩尻市全体の発展はない。北小野地区でも空き家が増え、人口減少が続いている。人口が減らない地域づくり、若者が住みよい地域のために道路整備が必要だ。議員がそれを引っ張っていってくれなければならないと思う。

以前は、西回りルートでは辰野町小野地区が反対し、東回りルートでは北小野が反対(して頓挫)した経過があったが、両小野バイパスが進まないとなれば、国直轄にならないことか、地元の反対か、予算の問題か、原因は何か。今までの経過を教えてください。

A 横沢議員

・原因と対策は大きく3つ。①153号線改良は、県内だけでも塩尻市から下伊那県境まで長く、お金がかかること、②国全体では地方分権の方向がありなかなか国直轄事業にならないこと、③153号改良期成同盟会の中での順位付けの問題。リニア関係でどうしても南側優先になってしまう傾向がある。

A 中村議員

- ・19号改良の問題もそうだが、事業化の優先順位付けでは交通事故の発生率の要素は非常に大きい。(現行は、153号は)県の管轄なので、交通事故発生データなど揃っているかどうか検証してみる必要があると思う。

雨氷災害について

Q1 市民

- ・北小野の雨氷被害は大きい。とくに〇〇地区？から勝弦にかけてと善知鳥峠の東側一帯がひどい。調査報告書の被害エリアは実際より小さい気がする。しっかり調査されたかどうか。我々の調査では被害木は2000本以上にのぼる。〇〇地区(の被害林)は、たまたま(間伐対策?)事業をやっていた関係で被害対策の予算がついたと聞いている。倒れなくて先端だけ折れたものも多いがこれから成長が心配。それが(将来)だめだとひと山全財産がなくなる。(被害で樹勢が弱くなって)松くい虫も心配だ。被害木はカラ松が多い。今後を考えると、雨氷被害が(間伐ができて)良かったという場所もある。被害森林の一部を樹種転換の好機という考え方もあるのではないか。(対策を考えれば)切り倒し(のまま)はまずい。ぜひ搬出までやってほしい。

A 金子議員

- ・なかなか素早い対応ができなくて申し訳ないが、県としてもあまり前例がなく条例等にも書いてないということで、現状では予算上あまり対応出来ないのが実態ということだ。搬出は、必要な作業道がない問題もある。補助率も低い。コストに合うかどうか地元でも考えていただくことも必要か。補助対象などのルール作りも必要。今後も県に対し対応を強く要請していきたい。

A 永田議員

- ・被害の大きかった松本、塩尻、山形、朝日2市2村で連携して県に要望していくことが必要と考える。

Q2 市民

- ・雨氷被害時に区長をやっていた。当日は、停電、下水道使用制限、断水、ため池、フェンスの破損など、いろいろな被害がどんどん出てきた。当日は市の各部署、支所、区長さん方など関係団体で倒木除去、除雪、電気、水道、下水道の復旧等、的確に動いてもらった。停電の回復は2日後の夜だった。これ以上続くともう限界という状況だった。さて二点お聞きしたい。

1. 市の対応は、ちゃんと防災対策として行われたのかどうか。ちょっと疑問も。対策本部もないような、とか、誰が采配しているかわからないというような場面もあった。これからは地震災害も想定されるなかで市の防災対応が心配だ。
2. 民有林の倒木被害対策はどのように。民間それぞれ自分で対応しろと言っても無理だ。今後の育林まで含め市や県の検討、指導が必要だ。

A 小澤議員

- ・私の記憶では過去4回、雨氷被害というものがあつたが、今回のような大規模で長期間にわたつたのは初めて。被害木は弾性の少ない松、カラ松が多く、亀裂が入り、伐つても

材木にならない。国の予算も熊本地震があったのでそちらに対策費がいつってしまう実情があり、対策は頭が痛い難題だ。

A 古畑議員

・洗馬でも大きな被害があったが、県として保安林指定がされていれば今回被害は県がしっかり行うということだった。今後災害対策のためにも積極的な保安林化を目指すことも視野に入れる必要があると思う。

その他

Q1 市民

・両小野バイパスについて、辰野の状況だが、40年前に頓挫して以降（153号改良は）飯田から北上して駒ヶ根まで来てようやくというところまで来た。両小野地区は153号しかないボトルネックだ。これをなんとかしようと、40年前には反対した伊北インター付近の住民が中心に伊那市、箕輪町含め道路懇談会を立ち上げた。現在広域連合2市8町村で一体的に改良促進をやっている。伊北インター付近は拡幅改良が進み渋滞は解消された。箕輪町までは4車線化が進んだが辰野は無理。で、山側を超えてという工事がすでに始まっている。両小野（バイパス）は待ってられないということで先線はパークラインにというルートだ。大型はバイパスへということだが153号へ戻るでは解決にならない。塩尻市へのお願いだが20号につなぐルートをぜひグランドデザインでもってもらえないか。

A 永田議員

・（両小野バイパスに向けては）辰野町との連携が大いに必要だということだ。予定時間も過ぎたのでこれで終了する。